

三宮周辺地区の活性化を目指して

神戸の玄関口にふさわしい「えきまち空間」を——西日本旅客鉄道株式会社（以下、JR西日本）、独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）、神戸市は三者連携のもと、JR三ノ宮駅周辺の再整備に取り組んでいる。その核となるJR三ノ宮新駅ビルの起工式が6日行われ、新年度から本格的に工事が始まる。神戸の新しいランドマークとなる新駅ビルを通してどのような都市の未来を創出していくのか。三者のトップがその期待と思いを語り合った。
(池田知隆)

新駅ビル開発で新たな神戸ブランドの創出へ



関係者による黙入れで施設の無事完成を祈願

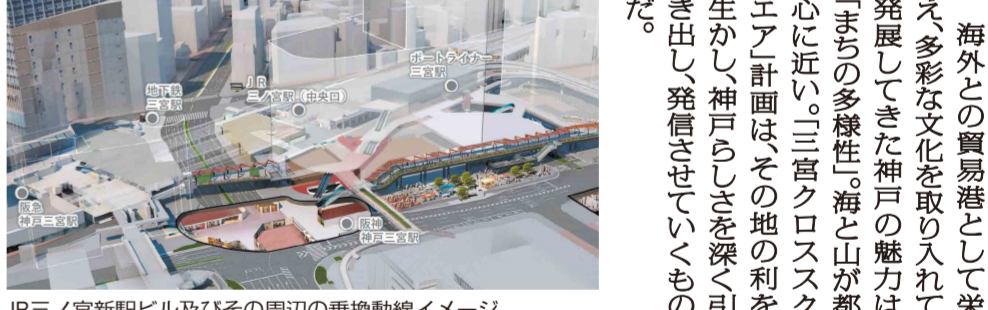
JR三ノ宮新駅ビルは、旧三宮ターミナルビル（地上11階建て）跡に建てられる高さ約155mの複合商業ビル（地下2階、地上30階建て）。商業施設、オフィス、ホテル、レストランなどで構成され、3階部分に駅前広場上空デッキが設けられ待合空間やイベントスペースとして利用される。2029年度に開業される。2029年度に開業される。2029年度に開業される。



神戸市中央区の建設地

「人が主役の居心地の良いまちをテーマに掲げたこの新しい「えきまち空間」は神戸の新しいブランドになる。また三宮周辺に分散したバス乗降場から1日当たり約1700便の中・長距離バスが発着している。これらを集約し、西日本最大級の新たなバスターミナルとなる高さ163mの複合ビル（地下3階、地上32階）も建設中。ここに商業施設、ホール、図書館、オフィス、ホテルなどがあり、多くの人が集まる拠点となる。

神戸の魅力情報を発信する基地に



JR三ノ宮新駅ビル及びその周辺の乗換動線イメージ

海外との貿易港として栄え、多彩な文化を取り入れて発展してきた神戸の魅力は「まちの多様性」。海と山が都心に近い。三宮クロススクエア計画は、その地の利を生かし、神戸らしさを深く引き出し、発信させていくもの。



三宮クロススクエア（東側・第1段階）のイメージ

「ここから東西南北の4街区が広がる。鉄道駅やバスターミナルのある東側には「ぎわいゾーン」、元町方面につながる西側は「うらおいと集いゾーン」、六甲山を望む北側は「山を感じる自然ゾーン」、花と緑の連続や海へのつながりを意識した南側は「海へつながる環境ゾーン」に分けて、それぞれ整備が進められる。歩くことが楽しく、巡りたくなるまち。神戸市は、都心の中心となる三宮交差点は、神戸の「顔」にふさわしい空間を形成する「象徴ゾーン」。車中心から、人と公共交通機関を中心のまちにするために、広い歩道や広場スペースがつけられる。道路は現在の10車線から6車線に、最終的には3車線まで減らされる。

JR新駅ビル開発で新たな神戸ブランドの創出を



JR三ノ宮新駅ビル外観イメージ

JR三ノ宮駅周辺の将来に関するトークセッション



JR西日本代表取締役社長 長谷川一明氏

「えきまち空間」は神戸の新しいブランドになる。また三宮周辺に分散したバス乗降場から1日当たり約1700便の中・長距離バスが発着している。これらを集約し、西日本最大級の新たなバスターミナルとなる高さ163mの複合ビル（地下3階、地上32階）も建設中。ここに商業施設、ホール、図書館、オフィス、ホテルなどがあり、多くの人が集まる拠点となる。



トークセッションの様子。UR都市機構理事長 中島正弘氏、神戸市長 久元喜造氏、長谷川一明氏らが参加。



神戸市長 久元喜造氏

「神戸の新しいランドマークとなる新駅ビルを通してどのような都市の未来を創出していくのか。三者のトップがその期待と思いを語り合った。」

トップが語る—— JR新駅ビル計画と三宮の未来
——まず長谷川社長に事業概要の説明を進行役、長濱教授。——日本のように都市の真ん中に駅があるのは、世界の都市では珍しい。その駅前が変化に向けて新駅ビルの果たす役割は大きい。今年で神戸—大阪間で鉄道が開通して150周年となり、この着工はとても意義深い。神戸の玄関口としてふさわしい情報発信の機能を果たしながら、人々が回遊しやすい公共空間の形成に寄与していきたい。新駅ビルが完成する2029年ほどは、この世の中にならぬ。この先端のものこそが新駅ビルか。

「人が主役の居心地の良いまちをテーマに掲げたこの新しい「えきまち空間」は神戸の新しいブランドになる。また三宮周辺に分散したバス乗降場から1日当たり約1700便の中・長距離バスが発着している。これらを集約し、西日本最大級の新たなバスターミナルとなる高さ163mの複合ビル（地下3階、地上32階）も建設中。ここに商業施設、ホール、図書館、オフィス、ホテルなどがあり、多くの人が集まる拠点となる。」

「お皿にどんな料理を盛り込むのか。ハードとソフトを組み合わせて、三宮に神戸らしい「えきまち空間」を実現させてほしいですね。どうもありがとうございます。」